

MINI

NEXCO東日本レポート 2024



あなたに、ベスト・ウェイ。



NEXCO東日本グループ 価値創造ストーリー

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献することを経営の骨子として、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向け、「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長していくことを目指しています。

そして、未来に向けて、持続可能な社会の実現へ貢献し続けるため、NEXCO東日本グループが掲げてきたCSRキーワード

「地域をつなぎ 地域とつながる」に時間軸を加え「地域をつなぎ 地域とつながり 未来につなげる」としました。

「SDGsの達成に貢献し、新たな未来社会に向け変革していく期間」と位置づけ策定した「中期経営計画(2021年度～2025年度)」も事業環境の変化等を受けて見直しを行い、最終年度に向けてさまざまな取組みを推進していきます。



企業理念

コーポレートガバナンス

償還期間・料金徴収期間

持続可能な経営へ

(最大2115年まで)

事業概要

高速道路ネットワークを着実に整備し、安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお客さまに届けるための事業(道路事業・収益事業)を展開しています。



会社概要

社名	東日本高速道路株式会社 (East Nippon Expressway Company Limited)		
所在地	〒100-8979 東京都千代田区霞が関三丁目3番2号 新霞が関ビルディング TEL:03(3506)0111(代表) (サービスエリア・新事業本部) 〒105-0021 東京都港区東新橋二丁目3番17号 MOMENTO SHIODOME 6階		
代表者	代表取締役社長 由木 文彦	資本金	525億円
設立	2005年10月1日	社員数	2,573人 (2024年3月31日現在、社外への出向者を除き、社内への出向者を含む)
事業目的	高速道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理を効率的に行うこと等により、道路交通の円滑化を図り、もって国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与すること		
事業内容	高速道路の管理運営・建設事業、サービスエリア事業、駐車場事業、高架下活用事業、トラックターミナル事業、カード事業、ウェブ事業、ホテル事業、海外事業 など		

北海道支社	〒004-8512 札幌市厚別区大谷地西五丁目12番30号	TEL:011(896)5211(代表)
東北支社	〒983-8477 仙台市宮城野区榴岡一丁目1番1号 JR仙台イーストゲートビル	TEL:022(395)4002(代表)
関東支社	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町一丁目11番20号 大宮JPビルディング	TEL:048(631)0001(代表)
新潟支社	〒950-0917 新潟市中央区天神一丁目1番 新潟プラウカ3	TEL:025(241)5111(代表)

「高速道路事業の枠組み」の詳細はこちら <https://www.jehdra.go.jp/kiko/gyoumunogaiyou.html>



24時間365日、高速道路の安全・安心・快適・便利を守る

熟練の現場経験でお客さまの安全を守る

【道路管制センター】

4カ所に設置している道路管制センターは、高速道路の状況を把握し、交通管理業務の司令塔として、異常事象への対応やお客さまへの情報提供を行う「交通管制部門」とトンネル・非常用設備などを常時監視している「施設制御部門」により構成され、日夜、安全・安心・快適・便利な高速道路の提供に努めています。

【交通巡回の実施】

24時間365日、高速道路を巡回し、道路・交通等に異常がないかを確認しています。また、事故・故障車・落下物などの異常事象が発生したときには、現場に急行し、警察・消防機関等と連携のうえ、車線規制や事象対応を実施しています。

【法令違反車両の指導取締り】

高速道路の安全を守るために、法令で定められた車両の長さ・重量などの最高限度(一般の制限値)を超えた車両や、長大トンネルなどを通行する際に積載してはいけない危険物を積載している車両の走行を防ぐため、法令違反車両の指導取締りを実施しています。特に、重量超過車両は、道路構造物の劣化に重大な影響を及ぼし、交通安全上も重大な事故につながる恐れがあるため、入口料金所などで厳格に取締りを実施しています。



関東支社道路管制センター



落下物排除の様子



違反車両の取締りの様子

安全な高速道路を支えるDoctorたち ～保全・維持修繕～

お客さまの快適な走行を支えるのは路面や道路構造物の状態だけではなく、附属物や周辺の植栽などを良好な状態にすることも含まれます。日常的な維持作業(点検、清掃、草刈り等)と計画的な補修工事で、常に高速道路の健康維持に努めています。



維持作業の様子



補修工事の様子

料金収受の高度化・効率化

労働人口の減少を見据え、料金精算機の導入や遠隔対応に取り組んでいます。また、ETC専用料金所を運用するなどキャッシュレス化やタッチレス化を進めています。



遠隔地から料金収受を行うオペレーションセンター



ETC専用料金所



料金精算機

安全・安心を次の世代へ ～リニューアルプロジェクト展開中～

NEXCO東日本グループが管理する高速道路は、開通から50年を超える割合が2050年には7割を超えます。特に、橋やトンネルなどの構造物は、著しい損傷を確認している箇所もあります。また、点検技術の高度化により、新たに確認された劣化箇所も含め、計画的な更新事業に取り組み、高速道路の安全・安心を未来につなげていきます。



「高速道路リニューアルプロジェクト」の詳細はこちら <https://www.e-nexco.co.jp/renewal/>

地域の発展を高速道路の機能強化で支える

NEXCO東日本グループは、災害に強い高速道路づくりのほか、ミッシングリンク(道路が途中で切れている未開通区間)の解消、暫定2車線区間の4車線化やスマートICの設置による高速道路の機能強化を重要な課題と捉えています。ネットワークの整備を着実に進めることで、災害時の代替路を確保するとともに、「安全・安心・快適・便利な高速道路サービス」を提供し、地域社会の暮らしの向上に貢献していきます。



スマートICに期待される整備効果

既存の高速道路を有効に活用し、地域生活の充実や地域経済の活性化を推進するため、通行をETC車に限定した低コストで導入できるスマートICの整備を各地で進めています。

【東北道 都賀西方スマートIC】

都賀西方スマートICは、栃木IC～鹿沼IC間の都賀西方PAに接続したSA・PA接続型スマートICです。近隣には宇都宮西中核工業団地も整備されており、更なる経済効果が期待されています。また、栃木県北部の丘陵地には多くの観光施設やゴルフ場を有しており、観光シーズンには栃木IC付近の渋滞緩和による交通の円滑化など、さまざまな効果が期待されています。



【長野道 筑北スマートIC】

筑北スマートICは、長野道において最も長いIC間距離を有していた、安曇野IC～麻績IC間に接続した本線直結型スマートICです。周辺には土砂災害警戒区域に指定されている地域が数多く存在し、災害時に緊急物資等を筑北村の村内避難地へ輸送する際の高速道路とのアクセスが確保されるなど、さまざまな効果が期待されています。



進化するサービスエリア ～誰もが喜びと憩いを感じる場に～



NEXCO東日本グループでは、社会からの要請を的確に捉え、SA・PA(サービスエリア・パーキングエリア)のクオリティを高めていくことを通じて、お客さまニーズへ応えていきます。SA・PAで快適な休憩・休息を提供し、ドライブの疲れを減らし、お客さまの安全運転につなげます。

サービスエリア・パーキングエリアを生活の一部に

【ウォークインゲートの設置】

周辺地域の皆さまにも、SA・PAを利用いただけるよう、一般道側に「ウォークインゲート(お客さま用出入口)」を順次設置しています。

【地域との連携】

地域の名産品や地元で生産された青果類を幅広く取り揃え、SA・PAで販売しています。また、地域の皆さまがイベントを実施する場としてもSA・PAを有効に活用いただいています。



ウォークインゲート
(東北道 羽生PA上り線)



地域の青果類を販売
(関越道 赤城高原SA上り線)

防災機能を備えたサービスエリア

首都直下地震発生時に警察、消防、自衛隊やDMAT(災害派遣医療チーム: Disaster Medical Assistance Team)など複数の関係機関の利用を想定し、首都直下地震道路啓開計画「八方向作戦」における各路線の最大規模の休憩施設4カ所を、防災機能強化エリアとして整備しています(井戸・ヘリポート・防災備蓄倉庫・自家発電機・石油タンク容量の増強など)。また、インフラ事業者間で災害時連携協定を締結するなど、暮らしを守る備えをしています。



SA内のフードコートを防災拠点本部として活用することができる東北道 蓮田SA上り線での合同訓練の様子

最新技術とともに進化する高速道路

「moVision」の推進

高速道路機能・サービスの高度化と自動運転社会の実現に向けた社会課題の解決のための新たなモビリティサービスを提供するため、「次世代高速道路の目指す姿」を描き、これを具現化するための31項目の重点プロジェクトからなる「moVision」を立ち上げました。「moVision」は、「Mobility」と「Vision」を組み合わせた造語で、ロゴマークは未来へと向かう道を表現しています。

[将来の目指す姿<重点プロジェクト>のイメージ]



「moVision」の詳細はこちら <https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/future/>



SMHプロジェクトの推進 ~管理事業の生産性向上~

SMH(スマートメンテナンスハイウェイ:Smart Maintenance Highway)は、ICTやロボティクス、AIなど最新技術を活用し、高速道路のアセットマネジメントにおける生産性を向上させるプロジェクトです。これにより業務の効率化・高度化を図り、各業務における意思決定プロセスの標準化と生産性向上を図ります。

「SMH」の詳細はこちら <https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/smh/>



「雪氷対策高度化システム」の開発状況

近年、除雪車を運転・操作するオペレータは高齢化の傾向にあり、新たな作業員の確保も重要な課題の一つとなっています。また、降雪や吹雪の影響で、道路の外側線やガードレールの位置などの把握が難しく、除雪車の位置が運転手から把握できないという技術的な課題も抱えています。

こうした課題を解決するため、除雪作業の省力化・効率化を目的とした研究開発(ASNOS(雪氷高度化対策システム))を進めており、2023年度は、ロータリ除雪車の自動化技術を開発し、道央道(岩見沢IC~美瑛IC間)で運用を開始しました。なお、2023年度は2名乗車で運用し、天候や交通状況等に応じた検証を行いました。



本線走行試験の様子

「ロータリ除雪車自動化の運用開始」の詳細はこちら https://www.e-nexco.co.jp/assets/pdf/pressroom/data_room/regular_mtg/r05/1025/02.pdf



「2050年カーボンニュートラル」を目指して

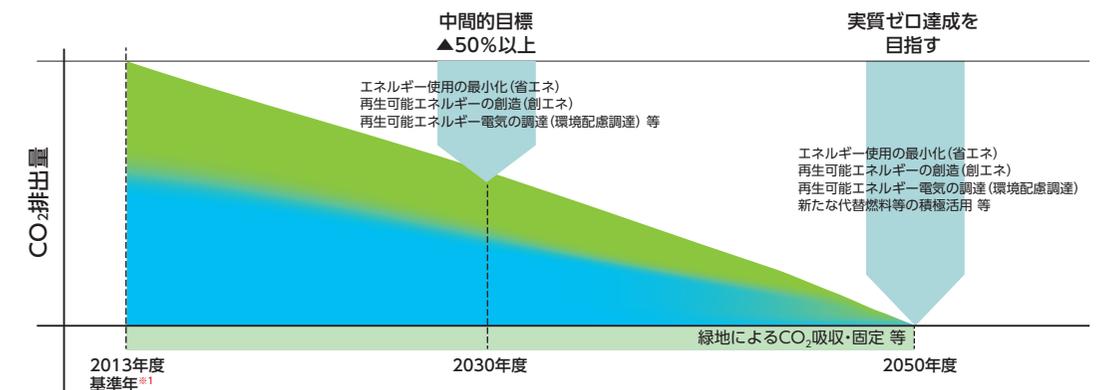
NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略

NEXCO東日本グループでは、サプライチェーンを対象に温室効果ガスの実質排出量の削減を推進する「NEXCO東日本グループ カーボンニュートラル推進戦略」(以下、「本戦略」)を策定しました。

グループ一丸となって、高速道路事業を通じた道路交通の円滑化などによる温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、エネルギー消費の最小化や再生可能エネルギーの創造・活用を推進し、産業界等とも連携した新たな技術の開発にも挑戦して2050年カーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

自社の事業活動による排出 **Scope 1** …… 燃料の使用<直接排出> / **Scope 2** …… 電気の使用<間接排出>

自社の活動によるCO₂排出量について、削減策を計画・推進し、2050年度のCO₂実質排出量ゼロの達成を目指します。また、中間的目標として2030年度においてCO₂排出量を2013年度比50%以上の削減を目指します。



*1 本戦略では地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定)に準拠して、2013年度の排出量を基準に削減率をモニタリングしていきます。

自社の事業活動に関連する他者の排出 **Scope 3**

【上流】 高速道路の建設・管理のために調達する工事等<間接排出> / 【下流】 高速道路を走行する自動車からの排出等<間接排出>

政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現と2030年度における目標*2の達成を目指し、高速道路を走行する自動車や高速道路の建設・管理のために調達する工事等によるCO₂排出量削減に寄与する施策を推進します。

*2 地球温暖化対策計画における温室効果ガス排出量・吸収量の目標。2030年度の目標・目安として2013年度比▲46%(さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。)とされ、区分ごとの目標・目安として、産業部門で▲38%、業務その他部門で▲51%、運輸部門で▲35%などが示されています。

資源の有効活用

【バイオマスガス化発電の技術開発】

高速道路の維持管理で発生する刈草や剪定枝、間伐材等の植物発生材(バイオマス)を燃料源とする発電の技術開発に取り組んでいます。バイオマスを熱分解炉で蒸し焼きにすることで生じるガスをエネルギー利用し、発電する仕組みで、創出した電力は高速道路関連施設で利用しています。

また、バイオマスを直接燃焼せずガス化することによって発生する炭化物(チャー)を、土壌改良材などに有効活用しています。

【植物発生材の堆肥化】

2023年度に樹木の剪定や草刈りなどの作業で発生した植物発生材は、約93,000m³となっています。この植物発生材は、富岡バイオマスガス化発電プラントで利用されるほか、堆肥化による自社での循環利用や外部での堆肥・チップ材やバイオ燃料等として、植物発生材の約90%を「緑のリサイクル」として有効活用しています。



富岡バイオマスガス化発電プラント



緑のリサイクル(堆肥)

草刈り

堆肥製造

現場利用

高速道路がつなぐ地域社会と国際社会

旅行を喚起し、交流人口を拡大

〔充実したETCサービス〕

ETCを活用した時間帯割引、マイレージサービスなどに加え、地域と連携した観光振興の取組みとして、周遊型割引商品「ドラ割」を販売しています。

〔旅行サイトの運営やインフラツーリズムの開催〕

旅行サイト「ドラぶらの旅」では、温泉やウィンタースポーツなど当社管内の観光資源と高速道路を結びつける旅行商品を販売しています。また、普段は見ることができないトンネルの管理施設などを間近に体験できるインフラツーリズムも開催し、多くの方にお楽しみいただいています。

〔地域の皆さまとドライブを盛り上げる〕

SA・PAではスタンプラリーや魅力満載のイベントを開催しています。また、高速道路地図やドライブ・観光情報、SA・PAの情報などを掲載した「ハイウェイウォーカー」や地元自治体などが制作した観光情報誌などを取り揃え、ドライブをより楽しんでいただけるような情報を発信しています。

「ドラ割」の詳細はこちら
<https://www.driveplaza.com/etc/drawari/>



「ハイウェイウォーカー」はこちら
<https://www.driveplaza.com/sapa/hw/>



地域活性化の拠点として高速道路関連ビジネスを展開

首都圏と東北地方、太平洋側と日本海側を結ぶ物流を効率よく行うため、東北道のIC付近にトラックターミナル(2カ所)を設置しています。このほか、都心へ自転車通勤される方などを対象にした日比谷駐車場に併設する駐輪場(HIBIYA RIDE)や、高速道路の高架下を利用した駐車場等を展開しています。



郡山トラックターミナル (東北道 郡山IC付近)



更衣室、シャワールームを備えた [HIBIYA RIDE]



東北道高架下駐車場 (さいたま市岩槻区)

国際社会への貢献と挑戦

NEXCO東日本グループは、経済成長著しいインドにおいて、2019年11月に現地法人E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED(ENI)を設立し、同国の路面状況の調査などを行い、最適な補修計画の支援などを手がけています。現在は、インド最大の有料道路運営会社であるCube Highways (Cube社)と休憩施設を含めた道路維持管理全般に関する技術アドバイザリー契約を締結し、インドへの技術展開を行っています。

このほか、当社が長年培ってきた技術やノウハウを、諸外国へのコンサルティング業務に活かすため、現地省庁の技術協力を目的として、各国で道路運営・維持管理に関する技術支援を行っています。



路面性状測定車両 [E-NEXCO Eye]



バングラデシュ道路局職員による当社技術センター視察

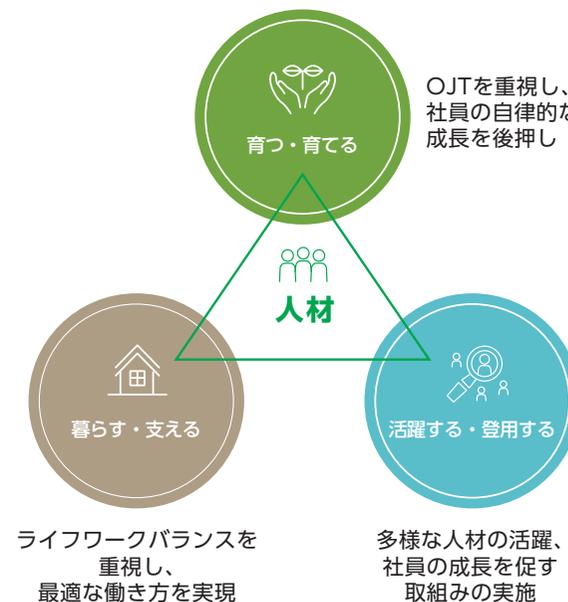
一人ひとりの成長を支える、多様で柔軟な働き方

社員一人ひとりが持つ能力やスキルを最大限に発揮できる人材育成の強化

〔人材育成方針〕

高速道路を将来にわたり維持し、進化させ続けるためには、現場力の源泉である人材を確保し、育成していくことが重要です。当社が求める人材像・能力・スキルを明示し、人材育成手法、ジョブローテーションとライフステージを両立する仕組みなどを盛り込んだ人材育成方針を策定し、社員一人ひとりが持つ能力・スキルを最大限に発揮できるよう人材育成を強化しています。

当社の事業エリアには、交通量の多い首都圏や雪への対応が必要な地域など、さまざまな地域があり、いずれの地域でもお客さまに同レベルの高品質な高速道路空間、サービスを提供していく必要があります。そのため、さまざまな地域で経験を積むジョブローテーションを通じて社員が成長できるよう、OJTを中核とする人材育成を強化しています。また、社員がライフステージとジョブローテーションを両立し、望んだキャリアパスを歩めるよう、ライフワークバランスを重視した施策を拡充しています。



女性の活躍推進

〔女性社員比率の向上へ〕

当社は、新規採用における女性採用比率3割、女性社員のネットワーク形成などの目標達成に向け、採用担当への女性社員の配置、ワーキンググループの設置や座談会の開催などに取り組み、女性社員の意見交換を活性化しています。

労働環境についても女性専用休憩室(仮眠室、更衣室、シャワー室等)の充実を図り、より快適な職場環境の整備を進めています。



ワーキンググループでの活動の様子

〔子育て支援〕

女性社員の育児休業取得率は100%ですが、男性社員の取得率を向上させることで、性別に関係なく、育児中でも働きやすい職場環境づくりを会社全体で目指しています。

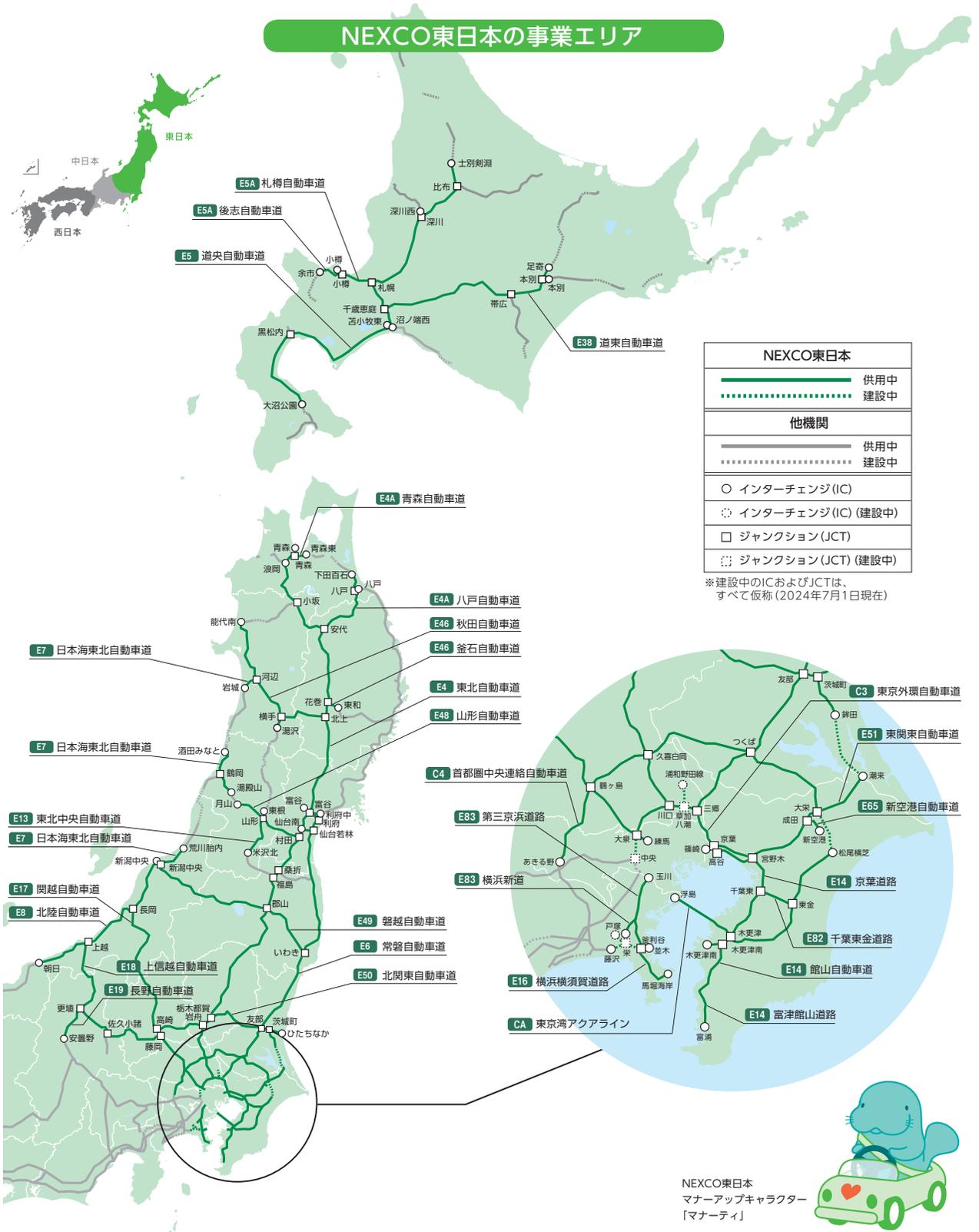
2023年度からは、男性・女性社員とも子どもが3歳に達するまでは、転勤を免除する制度を導入しています。



シニアの活躍推進

働く意欲と能力のある高齢社員の経験やノウハウを現場の最前線で活かすことができる「キャリアシフトチェンジ制度」を導入しています。また、定年退職年齢を2022年度より2年ごとに1歳ずつ段階的に65歳まで引き上げつつ、現在は定年退職後も65歳まで継続して働くことも可能な再任用制度を導入しています。

NEXCO東日本の事業エリア



NEXCO東日本レポート 2024 **MINI**

発行:東日本高速道路株式会社

〒100-8979 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付14階)

<https://www.e-nexco.co.jp/>



UD FONT

本報告書は、環境に配慮し、用紙にFSC®認証紙を、印刷インキに揮発性有機化合物を含まないNON-VOCインキを使用し、印刷はアルカリ性現像液やインソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷」で行っています。また、読みやすさに配慮された「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。

2024年9月 発行



NEXCO東日本
マナーアップキャラクター
「マナーティ」